

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
社会のための継続的イノベーション検討小委員会
第25期・第11回議事要旨

令和5年1月26日

作成 澤田 隆

1. 日時 令和4年12月22日(木) 10:00～11:10
2. 会場 遠隔会議 オンライン開催
3. 出席者 松岡委員長、越塚副委員長、小野、関村、矢川、白鳥、宮野、山本、澤田(佐倉、吉村、中村欠席)
4. 配付資料
 - 資料1 前回議事録
 - 資料2 報告書改訂案
 - 参考 前回議事メモ
5. 議事
 - 1) 議事録確認(資料1)
 - ◎議事録を確認した。コメントなく了承された。
 - 2) 報告書改訂案の審議
 - ◎資料2の改訂部について松岡委員長と山本委員より概要説明があり、意見交換を行った。以下に内容を示す。
 - ◎ 議論
 - エコシステム
 - ・低頻度高リスク事象をどう考えるか?
 - ・「エコシステム」が分かり難いので、もう少し説明が必要では?
 - ・知見の無いところでどう対応するかが課題であることを「はじめに」で記載するのが良いのでは?
 - ・「エコシステム」とは自力的に発展出来るシステムのことなので、必ずしも「エコシステム」と言わなくても良いのでは?
 - ・技術と社会とが一体となったシステムのことなので、説明を追加する。
 - ・原子力では人工物だけでなく自然現象とのインタラクションを取り込んでいる。このため新知見が重要。
 - 低頻度高リスク事象
 - ・なぜSMRを取り上げるかは、インベントリが少ないから防災が不要という点にあるのではないか?
 - ・低頻度高リスク事象に関する他分野の参考文献の紹介

「低頻度・巨大損失事象」に係わるリスク学（分析）の課題— 巨大複合災害（大地震動＋巨大津波＋福島原子炉溶融事故）としての東日本大震災から学ぶ
(jst. go. jp)

- 低頻度高リスク事象に対する具体例を示すと分かり易いのでは？
- $P \times C$ が同じでも、人は C の大きい事象を恐れる。等リスクではなく C の大きい事象の頻度を下げる $F-C$ ターゲットが議論されている。
- $F-C$ ターゲットが本当にリスクを下げることになるのか、安心とコストをどうバランスさせるか議論が残る。
 - ワクチン開発
- 日本でのワクチン開発の遅れは、書き出すと分量が多くなるので省略することで良い。
 - 国際競争力
- 日本の国際競争力は、ここ 30 年でトップから 30 番台に低下した。その反省が必要ではないか？
- チャレンジをしない、ゼロリスクを選ぶ社会が問題。リスクを許容しチャレンジできる社会とすべきだが議論されていないのでは？
- 産業界が乗ってこない、皆が足を引っ張りあっている点が問題では？
- F1 事故がそれらの原因になったのでは？
- 上記問題解決のためにイノベーションが必要という点を「はじめに」に記載しては？
 - 学術会議内手続き
- 1 月末までに公式に申出書を提出する必要があり、その線で準備を進める。

3) 今後の進め方について

- ◎ 意見交換の内容に基づき、内容の整理と検討を進める。
- ◎ 次回は委員長が別途メールで日程を調整する。

以上